

令和元年度熊本地震復興支援ボランティア

代表者 明 石 崇 史（工学部安全システム建設工学科 3 年）

1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、2016 年に発生した熊本地震の被災地域の復興支援活動を行うと同時に、香川大学生の防災意識の向上を図ることを目的としたものである。活動内容としては、「語り部さんの話を聞く」及び「うどん作り教室の開催」の 2 つを行いました。まず、前者については、東海大学の学生による有志団体である「阿蘇の灯」の方や、現在も語り部として活動されている吉村さんなどから、被災当時の様子や避難所運営などについてお聞きした。この活動を通じて学んだことを香川に持ち帰り、広めることで多くの人の防災への意識の向上や今後の災害発生時において私たちが避難所運営に生かすことを目的として行いました。また、後者については、現地のニーズとして、「自立を促すような活動を行ってほしい」という要望があったため、昨年好評だったうどん教室を引き続き行うとともに、うどん作りの作業を一緒に行うことで住民の方の自立への支援につなげることを目的として行いました。そのうどん教室を、熊本地震発生直後から、熊本地震の復旧・復興支援活動を行っている熊本大学学生災害復旧支援団体の「熊助組」と連携して活動をすることで、学生主体の大学間の連携を強めることを目指しました。熊助組とは昨年度から継続的に連携して活動しており、今回は準備段階から現地のニーズ調査などで協力させていただきました。



集合写真（青のビブスは熊本大学・熊助組）

2. 実施期間（実施日）

令和元年 8 月 10 日から 令和元年 8 月 11 日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

活動 1 日目は、南阿蘇村に訪れ、阿蘇の灯の学生から被災した当時の様子などの話を伺った。写真とともに当時の被災状況や倒壊した学生アパートに住んでいた生徒たちの当時の様子など、普段聞けないようなリアルな話や実際に被害にあったからわかる大切なことなど、自然災害の怖さを改めて実感したとともに、ここで学んだことを今後の活動に活かそうと強く思いました。



阿蘇の灯の方からお話を伺っている様子

活動 2 日目のうどん教室では、小さな子供からお年寄りまで幅広い年代層の方に参加していただいた。うどんは約 100 食提供することが出来ました。仮設住宅の方々からは、「うどん作りを体験でき、楽しかった」「自分でも作ってみようかなと思った」などといったお声をいただいた。また、熊助組からは、「来年もぜひやってほしい」というお声をいただいた。



うどん作り教室・活動風景

また、このプロジェクトを通じて、香川大学から参加した学生の防災意識の向上につながったことが実感できました。現地では、他大学の学生との学生のみでの活動であるため、自分たちだけで判断して臨機応変に対応するべきことが多くありました。その中で、普段から災害復興支援団体として学生主体で活動している熊助組の学生たちと協力して活動したことで、活動への取り組み方や被災者の方々とのコミュニケーションの取り方など、参考にすべき点が多く、香川大学からの参加者にとって防災に関して学べることたくさんありました。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

- ・ 学内報告会によって学んだことの共有と防災意識の向上

現地での活動後の10月17日に香川大学幸町キャンパス415教室にて、現地で活動したメンバーが、活動を通じて学んだことや感想などを報告しました。被災地の状況や現地での活動で学んだことなどを学内の学生と共有することで、香川大学生の防災意識や防災力の向上に貢献できたと思います。



活動後の香川大学内での報告会の様子

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

今年度の活動では、前年度の反省点の改善に取り組んだ。前年度では、うどん教室において、学生同士が固まってしまう、現地住民の方との交流が出来ている人と出来ていない人がはっきりしていました。その結果、うどん作りに専念する学生が多く、参加者の中で、うどん作りを体験せず、食べてもらうだけの方が多数いました。これでは、今年度において現地が求めている「自立を促すような活動」に反しているのではないかと考え、今年度の活動ではその改善に取り組んだ。その結果、住民の参加者の入れ替わりは去年より少なく、一人一人との交流により多くの時間費やせました。この力は、防災士としての活動に限らず、課題解決能力として日ごろの学生生活に役立っています。

また、今年度の活動は、昨年度の活動に比べ、活動内容に、阿蘇の灯を始めとした語り部の話を聞く機会を増やしました。これにより、香川大学の参加者の防災に対する意識や熱意の向上、今後の学問への取り組み方に貢献できたと思います。



参加者の方が実際にうどん作りの作業を行っている様子

6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

本プロジェクトの反省点は、計画の甘さです。今年度の活動は、8月の土・日曜日の2日間を活用して行いました。なぜなら、うどん教室を休日に行くことで、より多くの方に参加していただけるのではないかと考えたからです。しかし、活動日はお盆休みの直前の土日ということもあり、高速バスの利用者が多く、熊本県との往復で活用した高速バスの予約が取れなかった人がいた。取れなかった人には、予算や時間などを考慮し、別ルートでの移動となってしまった。今後は、このようなことがないように活動内容だけでなく、活動日に関しても念入りに計画したいと思います。

今後の展望としては、以下の3つが挙げられます。

- ①他大学との連携の継続・発展
- ②今年度の活動を踏まえ、よりレベルの高い活動の企画運営を行う
- ③香川大学生の防災意識向上のための活動
- ④学内報告だけでなく SNS により学外への情報発信

本プロジェクトを通じて、被災地やその住む被災者の様子などを自分の目でみる事が出来ました。また、被災地でのボランティアにおいて大切にしなければならないことについて学ぶことが出来ました。ここで学んだことを、南海トラフ地震で甚大な被害が予想される香川県内で、地域の防災力や防災意識の向上に貢献していきたいです。そのために、今後は特に四国内の大学との協力も視野に入れていきたいと思います。

7. 実施メンバー

代表者	明石 崇史	(工学部3年)		
構成員	宮崎 夢海	(工学部3年)	本田 菖	(教育学部3年)
	谷本 竜一	(工学部2年)	宮地 実佑	(工学部2年)
	矢野 安珠佳	(工学部2年)	善積 麻衣	(農学部2年)
	笹岡 亮佑	(工学部1年)	松下 昌丞	(工学部1年)
	渡辺 尚平	(工学部1年)		
協力団体	熊本大学・熊助組			
	東海大学・阿蘇の灯			

8. 執行経費内訳

配 分 予 算 額		179,992円		
執行経費（品目等）	数量	単価(円)	金額(円)	備 考
中力粉（小麦粉）	15	408	6,120	
片栗粉	1	368	368	
水	1	1,500	1,500	
食塩	1	397	397	
70Lゴミ袋	2	535	1,070	
ポリマーどんぶり 中	3	598	1,794	
割り箸	2	275	550	
めんつゆ	5	1,296	6,480	
刻みのり	1	1,093	1,093	
ごま	1	966	966	
ショウガ	4	135	540	
氷	4	204	816	
耐熱ポリ袋	1	175	175	
スポンジ	1	108	108	
洗剤	1	138	138	
お茶	1	1,668	1,668	
カルピス	1	2,224	2,224	
紙コップ	3	246	738	
布巾	1	1,398	1,398	
養生テープ	1	253	253	
ガスボンベ	2	668	1,336	
ウェットティッシュ	2	204	408	
物品輸送費	6	2982	17,892	
高松～テクノ団地 往復	10	13196	131,960	
合 計			179,992	